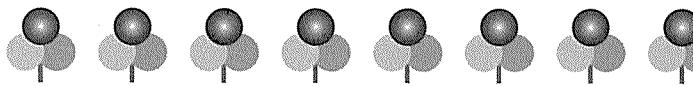


特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

会報



volt
21

発行日 平成 29 年 2 月 23 日

発行者 特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

住 所 島根県松江市白潟本町 43 番地

スティックビル 3 階

電話・FAX 0852-60-5389

Mail shimane-caremane@knh.biglobe.ne.jp

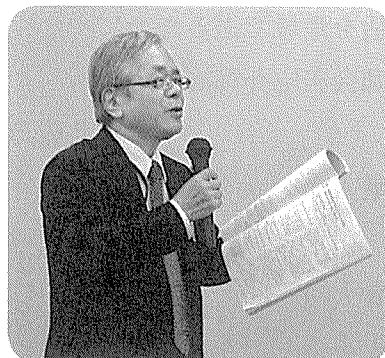
第 14 回 島根県ケアマネジャー研究大会を終えて

島根県介護支援専門員協会 副理事長 石飛智朗

去る、平成 28 年 12 月 3 日(土)～4 日(日)の 2 日間、第 14 回島根県ケアマネジャー研究大会を、出雲市の朱鷺会館にて 180 名の参加をいただき、『生活や尊厳を守るケアマネジメント実践!』をテーマに開催しました。

初日は東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員 木村清一氏より『Ageing in Place の実現を目指す 地域包括ケアシステムのまちづくり』と題した講演をいただき、その後『ザ・プロフェッショナル』～仕事の流儀～として、3 名のケアマネジャーからの実践発表、全国民生委員児童委員連合会 会長 堀江正俊氏からは『民生児童委員の立場からケアマネジャーに期待するもの』と題した講演がありました。2 日目は安来圏域、益田圏域からの研究発表と、気づきの事例検討会を長年実践している松江圏域の取り組みについて 2 名の方から講演していただきました。

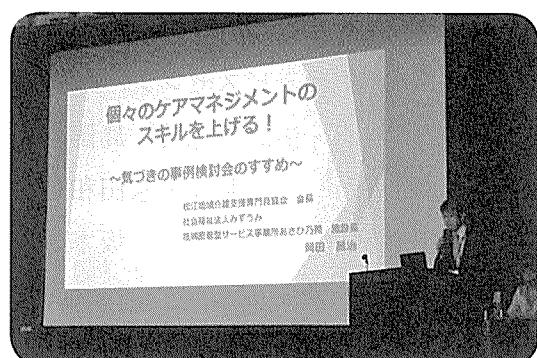
介護保険は今、「地域包括ケア」の実現に向けて各地域で本格的に取り組みが始まっています。



そのような中、今回の研究大会では、木村先生の柏市での健康福祉部長としての実践を踏まえた講演を中心、私たちがそ

れぞれの地域で行政や他職種と一緒にになって取り組むべき方向と、熱意を持って周囲を巻き込むことの大切さを学びました。また、匠のマネジメントや気づきの事例検討会の実践からは生活や尊厳を守るためにには、やはりケアマネジャーとして目の前のご利用者を適切にマネジメントできるスキルを磨き続けていくことの重要性を再認識しました。

この研究大会をきっかけに、いつか誰かがという考え方から、地域で、職場で、個人の実践で、まずは自分が動くことが出来る人間にならなければと思いました。同じような思いを持った仲間がたくさんいらっしゃったことと思います。お互いに頑張りましょう!



■ ザ・プロフェッショナル ~仕事の流儀~ 「匠のケアマネジメント」

施設の生活を変えたケアマネジメント

社会福祉法人みずうみ
特別養護老人ホームうぐいす苑

安達 宣子 川上 富司好

この度、ケアマネジャー研究大会に、“施設の生活を変えたケアマネジメント”と題して発表させて頂きました。

私が勤務するうぐいす苑では、看取りのことを「笑死（えし）」と名づけ、ご利用者様、ご家族様、そして関わる誰もが穏やかな気持ちで、笑顔で、最期のお手伝い、お見送りが出来るようにと取り組みをしています。

今後は、これまでの経験を生かし、看取りにおける自立支援～輝ける最期～を目標にいよいよ看

取りの最終章に向け、様々な視点から新しい活動の展開を考えています。多職種協働でエンディングプランを立て、最期までその人らしい当たり前の生活を続けていただけるよう介護ロボット等の導入も考えています。施設ケアマネとして、多職種協働という顔の見える繋がりの牽引役として、行動を可視化し、ご利用者様やご家族様、関わるスタッフの想いを形にして、「輝ける最期」を目指に、ひとつひとつの命と丁寧に向き合いながら関わっていきたいと考えています。



座長 島根県介護支援専門員協会

副理事長 高橋京子



1 標 題 「地域活性化プロジェクト in 安来」
副 題 ～地域と共に歩み・育み・慈しむ～
発表者 太陽デイサービスセンター 花谷理成
共同研究者 山田英明・福島智恵美・島田幸恵・
古澤真弓・宇山亜弥・永田和也・
祖田美佳子・安達悦子・坂本多美江

2 標 題 「医療とのより良い連携を目指して」
副 題 ～望む生活を地域で送るために～
発表者 益田市医師会居宅介護支援事業所
松井麗乃
特別養護老人ホームくしろ宝寿苑
佐々木俊博
共同研究者 千葉利之・大場律子・岡崎正興・
渡辺秀美・小濱みどり・大島いずみ

研究発表を終えて・・・

安来地域介護支援専門員協会 花 谷 理 成

安来協会研究部として「地域活性化プロジェクト in 安来」と題し、二年連続で研究大会という貴重な場でその活動を皆さんに報告することができたことをとても嬉しく感じました。

これからの中護に地域活性化が必要だと考え、三年間の様々な取り組みをよりわかりやすく伝えること、発表を通じて改めて準備や発表で人に想いや考えを伝える難しさを再確認できました。ですが同時にかけがえのない経験ができ、それが自信の糧となっていることも実感できています。そのため、もっとたくさんの方にこの研究大会の場を自信のレベルアップの為に有効活用できないかと考えました。

私達の活動も二十九年度が最終章になります。地域を元気にしたいというシンプルな想いから、今までの経験と未来的思考を交錯させながら地域とケアマネ協会の発展の一助となるように活動をしていきたいです。



第14回 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

益田地域介護支援専門員協会 松 井 麗 乃

益田地域協会では、今年度は入院施設を有する医療機関との連携強化に焦点を当て、現状における課題の抽出とその解決に向けて必要な取り組みを検討し、12月4日、研究大会にて発表させて頂きました。

今回の活動で実施した、ケアマネジャーと医療機関の退院調整に関するスタッフへのアンケート調査の結果は、厳しい意見や切実な課題が非常に

多く上がり「まだまだ、これからだ」という思いを強くさせられるものでした。

発表大会では、先進的に取り組んでおられる他圏域の発表や講演

を聴き、自分たちも前に進まなければという気持ちになり、発表後には、前日の講演会講師の木村清一先生より、激励のお言葉も頂きました。

来年度は、いよいよ本格的に課題解決に向けた取り組みを実践していくことになりますが、医療と介護の連携体制の更なる深化を目指して、地域協会が一丸となって取り組んでいけたらと考えております。



平成 28 年度 主任介護支援専門員フォローアップ研修

「職場の部下などに対する、対個人のスーパービジョンに焦点を絞って」

～対人援助職者（スーパーバイザー）も指導者（スーパーバイザー）も育つスーパービジョン～

開催場所 【東部会場】 いきいきプラザ島根 401 研修室

日 時 平成 28 年 10 月 28 日(金)



【西部会場】 島根県立西部総合福祉センター

いわみーる 402 研修室

日 時 平成 28 年 11 月 21 日(月)

東 部 会 場

平成 28 年度 主任介護支援専門員フォローアップ研修に参加して

介護のよろず相談所 もくれん 川 上 千 春

さる平成 28 年 10 月 28 日、主任介護支援専門員のフォローアップ研修として、山口大学大学院医学系研究科の山口俊恵教授の講義を受けた。表題は、「職場の部下などに対する、対個人のスーパービジョンに焦点を絞って～対人援助職者（スーパーバイザー）も指導者（スーパーバイザー）も育つスーパービジョン～」。

指導者としての主任ケアマネジャー（主任 CM）の力量を高める方法の一つとして、スーパービジョン（SV）について学んだ。（模擬グループスーパービジョン（GSV）を行いながら。）

GSV は、一般的な事例検討会と似ている点もあるが少し異なる。通常、事例検討会は、困難事例への解決策、対応策を検討することに焦点を当

てるが、GSV は、事例提供者の「気づき」に焦点を当て検討していく。GSV の構成は、事例提供者、参加者（複数）、司会者、スーパーバイザー（司会者がバイザーを兼ねることもある。）からなる。大まかな流れとしては、事例の説明を受けた後、参加者が、事例提供者に対し、『事例についての認識を整理し、掘り下げられる』ような質問を行い、最終的には、事例提供者に、自分自身でどのように対応すべきかを気づいてもらうといったものである。（この形式から、この GSV を『気づきの事例検討会』とも言う。）

GSV を行うメリットとして、主に二つあると思う。一つには、コーチング力（ティーチングのような単なる指示や指導ではなく、クライアント

〔事例提供者〕の思考力を向上させたり、自分自身で問題を解決させる力につけていく）を身につけることができる点。これは、職場での他職員（同僚や部下など）への助言、指導にも当然役立つ。指導的立場にある主任 CM には、必須のスキルである。

二つ目としては、対人援助技術の向上につながる点。GSV の中の、質問者と事例提供者の関係が、支援現場での、支援者とクライアント（利用者）の関係に置き換えられる。近年特に重視される傾向にある（わが国の障がい者の権利条約批准に伴う）意思決定や自己決定の支援に関するスキルの向上につながる。

この学びを受けて今後、自分の地域で GSV（気

づきの事例検討会）を定期的に開催していくために、活動を開始していこうと思う。CM が、専門職として、専門的なスキルを身につけて業務を行えるように。また、その指導的な立場である主任 CM が専門性の高い対人援助職者を養成できるように。



西 部 会 場

～主任介護支援専門員フォローアップ研修から見えるもの～

万葉苑居宅介護支援事業所 島 津 美枝子

山根俊恵先生の、いつもながらの軽快で明るい話口調で、研修の前半は滑らかに進んでいった。ご本人の実例を交えた講義は、すんなりと体の中に浸透していくのを感じた。

午後からの事例検討会では、事例そのものが直接利用者との関係性を悩んでいるものではない



ケースだったので、質問の内容やタイミングに戸惑う場面もあり、改めて質問力や事例提供者に気付いてもらう流れの作り方に難しさを感じた。現在、益田市においても事例提供者に焦点を当てた事例検討会を開催している最中、段階に沿った検討会の流れを作り、事例提供者自身が気付き、自分の言葉で振り返りを促すことは、とてもエネルギーの必要なことだと痛切に思っている。私達は、人から与えられる知識ばかりでなく、ヒントからひらめきを生かし、自身を振り返り向上する糧としなければ、成長を遂げられない時代に差しかかっているのであろう。いつの時にも自己覚知は大切であると感じた。

大田地域協会の取り組みについて

大田地域介護支援専門員協会 会長 江川寿一

大田地域協会は、今年度の取り組みとして「医療との連携」を主に取り組んでまいりました。

例年、実際の事例を基に各関係機関の連携の在り方を意見交換という形で行っていましたが今回は、事例検討ではなく、日頃の業務の中での経験や反省、困り事等をグループワークで行い、連携には何が重要なのかを見交換しました。

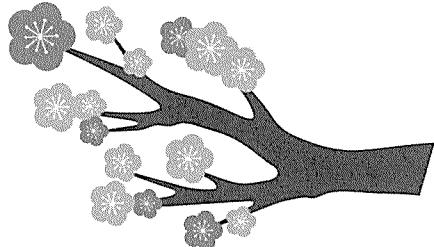
その結果、やはり情報の提供、共有、伝達をしっかりと行うことにより良い連携が保てると感じました。これからも医療連携をテーマに取り組んでいき、関係機関のより一層の関係づくりが出来るようにしたいと思います。

又、3月には民生委員さんとの意見交換会も予定しております。

現在の大田市の実情を考えると医療関係、福祉関係、行政で高齢者等をサポートしていくには限

界があると感じています。地域全体で見守り、支援を行い高齢者やその家族が安心して暮らせる社会が必要で、その為にはやはり、民生委員さんとの関係づくりが重要だと思います。例年活発な意見交換の場となっていて今回もお互い有意義な時間となり、関係も深まっていくと思います。

当協会は、会員も減少傾向にありますが、地域協会の重要性や役割を理解していただきながら、精一杯努力して行こうと思いますので宜しくお願いします。



編集後記

立春を迎えたとは言え、吹く風はまだまだ冷たく頬をさす日々が続いています。そのようななか我が家の盆栽の白梅が満開となり、何ともいえない良い香りを漂わせています。

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われるよう、年明けから早1ヶ月が過ぎてしまいました。会員の皆様の中には、4月からの総合支援事業の準備に追われ、多忙な日々を過ごしておられる方もあることと存じます。つい先日、介護保険サービス利用の負担割合を、年収340万円以上の人には3割負担を検討しているというニュースをネットで見ました。利用者を取り巻く環境は、厳しくなるばかりのように感じてなりません。

利用者の方々に温かい風を届けられるように、私たち介護支援専門員が一つにまとまり職能団体としての声を中央に届けるためには、会員一人ひとりの力が必要です。一人でも多くの方に入会して頂き、住み慣れた地域での生活を支えられるようにと願ってやみません。

(副理事長 三浦 美紀子)